

TDKのCSRのあゆみ

TDKは創業以来一貫して「モノづくり」によって、社会に貢献してきました。
ここでは、TDKが社会からの期待に応えるために取り組んできた、
これまでの活動についてご紹介いたします。

1935

創業

1967

社是、社訓を制定

1993 » 環境活動

- 1993 TDK環境ボランティアプラン策定
- 1997 三隈川工場でISO14001(環境マネジメントシステム)認証取得
- 1999 グリーン調達開始
環境報告書の発行開始
- 2002 鉛フリーはんだに対応した電子部品の量産化技術を確立
「TDK環境活動2010」策定



TDK環境報告書1999

2002 » CSR活動

- 2002 企業倫理委員会発足(2005年より企業倫理・CSR委員会に名称変更)
TDK企業倫理綱領制定
- 2004 全社システムによるOHSAS18001(労働安全マネジメントシステム)認証取得
- 2005 CSR推進部会設立
- 2006 TDKの考えるCSRについて「社是の実践と企業倫理の追求」と定義
- 2007 製造全拠点でゼロエミッション達成
- 2009 TDKとしての拠点CSR活動の基軸を「EICC+JEITA」とすることを決定
TDK CSRセルフチェック作成・配布



TDK企業行動基準
ハンドブック
日本語版/英語版

変わらないもの、変わるもの

日本生まれの画期的な電子素材「磁性材料のフェライト」を、世界で初めて工業化することを目的に創業したTDK。以来70年以上、素材からのモノづくりを通じて、時代が求める独創的で価値ある製品を創出する活動を続け、エレクトロニクス社会の発展に寄与してきました。TDKグループは、これまでも、これからも変わらずに、価値ある製品を提供することで社会に貢献し続けていきます。一方、私たちを取り巻く環境は、日々変わり続けています。企業の活動範囲が広がるにつれて、社会に与える影響は良い面でも、悪い面でも大きくなりました。それに伴い、企業が社会に対して果たす責任の範囲も広がり、かつ重くなっています。

未来のために、今私たちができること

1992年の地球サミットで、環境問題が地球規模の問

題であるとの認識がなされたのを受け、当社では、1993年にTDK環境ボランティアプランを策定し、環境に関する行動指針を定めました。

1997年にはTDK三隈川工場においてISO14001の認証を取得。それを皮切りに、2005年度までには、国内全拠点において全社統一した環境マネジメントシステムの運用を開始するなど、体系的な運用と環境活動の方向性を明確にしています。

また、有害物質の使用規制が厳しくなってきた2002年には、鉛フリーはんだに対応した電子部品の量産化の技術を確立しました。同年には、社会の持続可能な発展と、循環型社会の実現のために、長期的な展望に基づいた環境基本計画が必要との判断から、「TDK環境活動2010」を策定。TDKの事業特性に基づく具体的な活動項目と中長期達成目標を掲げ、サイト、事業部門、スタッフ機能ごとに役割と責任を明確化して、活動の強化を図りました。現在は、新たな長期計画の設定と活動のグ

ローバル展開を盛り込み、「TDK環境活動2015」として、グループ一丸となって社会の持続可能な発展、循環型社会の実現を目指しています。

※TDK環境活動の経緯はWEBをご覧ください。
<http://www.tdk.co.jp/csr/csr05100.htm>

CSR活動への発展

企業が社会に対して果たす責任の範囲、および社会から企業への要望は、次第に環境活動だけではなく、透明性を確保した経営や、人権、雇用への配慮、ステークホルダーとの双方向コミュニケーションなどについても強く求められるようになりました。

電気・電子業界では、2004年にアメリカを中心に電子業界行動規範(EICC)が制定されました。これを受けて、2006年には、社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)によるサプライチェーンCSR推進ガイドブックが策定されています。こういった業界の流れにより、CSR活動は単独の企業や、グループ内企業だけでなく、

サプライチェーン全体で推進しないと完遂しないという共通認識が形成されました。当社グループも、サプライヤーとして、また、原材料を調達する立場として、これらを基軸にCSR活動を行なっています。

これからのTDKグループ

今後は、CSR活動を行うことで経営品質を向上させるためにも、組織体制の整備や活動の方向性を明確にするとともに、CSRセルフチェックをグループ各拠点に展開し、拠点による主体的なCSR活動への取り組みをすすめます。

創業以来大切にしてきたTDKグループのモノづくりの精神をこれからも守り続ける一方で、変化し続ける社会からのニーズに適時、適切に対応し、モノづくりを通じて社会に貢献するためにTDKは進化し続けます。